

事例4 「文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること」をねらった事例

○学年 第2学年

○主な領域 [思考力、判断力、表現力等] C 読むこと

○事例のポイント

- ①音読劇を通して登場人物になりきるといった児童にとって分かりやすい視点を与えることで、登場人物の行動を具体的に想像させる。
- ②多様な音読劇の発表を学習過程に組み込むことで、伝わり方や改善点を共有しながら、よりよい音読につなげる。
- ③シリーズの本を準備し、読書環境を整えることで、登場人物への思いや考えを深める。
- ④ICT端末で音読劇を撮影し、児童が視聴することで、客観的な評価の材料を加え、自らの学習を調整する力を高める。

1 単元名・教材名 そうぞうしたことを、音読げきであらわそう

「お手紙」アーノルド＝ローベル 作・絵 三木卓 訳

2 児童の実態と本単元の意図

これまで児童は、場面の様子や登場人物の行動などを基に、内容の大体を捉える学習を1年生から重ねている。さらに6月に学習した「スイミー(レオ＝レオニ 作・絵)」では、登場人物の行動や出来事を捉えてあらすじをまとめ、感想を読み合ったり発表したりする学習に取り組んでいる。この学習では、あらすじに自分の感じたことを織り交ぜて友達に紹介することができる児童がいる一方で、あらすじの紹介に終始してしまう児童が見受けられた。その原因として、音読に取り組むときに、声を合わせたり、大きな声で音読したりすることに意識が集中し、文章の構造と内容の把握や解釈に役立てられないことが考えられる。

そこで本単元では、音読を劇として発表する言語活動を設定し、登場人物になりきるといった児童にとって分かりやすい視点を与え、登場人物に同化して読むことを促す。登場人物の台詞として児童一人一人に場面の様子に着目させ、主体的に語のまとまりや言葉の響きに気をつけ、登場人物の行動をより具体的に想像できる力を育成する。

指導に当たっては、学校図書館司書と連携を図り、がまくんとかえるくんのシリーズ本を紹介し、児童の物語に対する興味や関心を高める。そして、シリーズ本でがまくんとかえるくんの音読劇を見せ、学級の友達の前で劇を発表するという学習のゴールを示して、児童が相手意識と目的意識をもって主体的に場面を読み進められるようにする。がまくんとかえるくんのシリーズ本について、児童がいつでも読むことができるように読書環境を整え、登場人物の新たな魅力に触れながら物語の世界を疑似的に体験できる読書の楽しさや面白さを感じることができるようにする。また、学習過程に、相手や規模の異なる音読劇の発表を組み込み、改善のサイクルを作ることで、自らの学習を調整し、粘り強い取り組みができるようにしていく。具体的には、小グループの発表において、ICT端末で自分たちの発表を撮影、視聴し、音読する自分自身の姿に評価や改善を加えるとともに、行動の理由を想像するなどして読みを深められるようにする。また、学習のゴールとなる学級全体への音読劇の発表では、発表後に児童一人一人が感じたことや分かったことを伝え合う時間を十分確保し、登場人物への思いや考えを深めることができるようにする。

3 単元の目標

- (1) 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。〈知識及び技能〉(1)ク
- (2) 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。
〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)エ
- (3) 文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。
〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)カ
- (4) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
〈学びに向かう力、人間性等〉

4 本単元における言語活動



読み聞かせを聞いたり物語を読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする。
(関連：言語活動例イ)

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。(1)ク)	①「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 (C(1)エ) ②文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。 (C(1)カ)	①進んで、場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像し、学習の見通しをもって、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりしようとしている。

6 指導と評価の計画 (全 12 時間扱い)

時	主な学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
1	○担任と学校図書館司書でシリーズ本の音読劇を見て、単元の学習の見通しをもつ。 事例のポイント① 学校図書館司書と音読劇を見せ、学習の見通しを示す。	○音読劇の仕方 事例のポイント③ シリーズの本を準備し、読書環境を整える。	○学校図書館司書と連携して、音読劇でシリーズ本を紹介し、読書への意欲化を図る。 ○シリーズ本を学級文庫に取り入れ、積極的な読書活動につながるようにする。 編 P36 指導計画作成の留意事項(7)(11)
2 ・ 3	○「お手紙」を読み、場面や登場人物の行動を確かめる。 事例のポイント① 登場人物になりきるといふ児童にとって分かりやすい視点を与える。	○場面や登場人物の行動の整理の仕方	○場所を基本に場面を分け、登場人物やその主な行動を整理する。 ○文中にある言葉を手掛かりに、誰がどうしたかを確認する。 【知識・技能①】 ワークシート ・語のまとまりに気をつけて、登場人物の言動を正確に捉えているかを確認する。
4 ・ 5 ・ 6 ・ 7	○登場人物の行動を具体的に想像し、音読の仕方を考える。 ○がまくん、かえるくん、ナレーターの役に分かれて、音読をする。 〈言葉による見方・考え方を働かせる例〉 「ふたりとも、とてもしあわせな気持ちで、そこにすわっていました。」というときに、幸せとはどのようなことなのか辞書的な意味で捉えた上で、もう一度叙述に戻って捉え直したり、文脈や場面の状況に照らし合わせながら問い直したりする。	○叙述を基にした読み方	○具体的な読み方を例示し、登場人物の言動に書き込みをしやすくする。 編 P36 指導計画作成の留意事項(2) 【思考・判断・表現①】 観察・ワークシート ・登場人物の行動の理由や、表情、口調、様子などを想像して音読しているかを確認する。

8	○お気に入りの場面を決めて、ミニ音読発表会の練習をする。	○お気に入りの場面の決め方 ○ミニ音読劇発表会の仕方	【思考・判断・表現②】 観察・ワークシート ・明確な理由をもって場面を選んでいるかを確認する。
9	○ICT端末を使って、ミニ音読劇発表会をする。 事例のポイント②④ 撮影した動画を見て、登場人物の行動を具体的に想像して演じることができているか自分で評価したり、感想を伝え合ったりする。	○音読劇の改善の仕方 	○小グループ同士のスペースを確保して、声の重なりを少なくする。 編 P36 指導計画作成の留意事項(2)(8) 【主体的に学習に取り組む態度①】 発表の観察・振り返り ・進んで、場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像し、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりしようとしているかを確認する。
10	○台本を修正して、音読劇の練習をする。	○叙述を基にした読み方(会話や行動)	
11 ・ 12	○音読劇を発表し、感想を交流する。 事例のポイント② 動画を見て改善を加えた音読劇を発表し、感じたことや分かったことを伝え合う。	○自分の思いや考えの伝え合い方 	○学習のまとめとして、登場人物の行動や場面の様子等について詳しく読み取れたことを中心に感想を交流する。 ○シリーズ本での登場人物の様子についても話題にして、読書活動につなげる。 【主体的に学習に取り組む態度①】 発表の観察 ・第9時の学習を生かして、進んで、場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像して演じようとしているかを確認する。 【思考・判断・表現②】 発言・ワークシート ・互いの感じ方や考え方を認め合っているかを確認する。

7 本時の学習指導（本時 9/12 時）

(1) 目標


- 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
〈学びに向かう力、人間性等〉

(2) 評価規準

- 進んで、場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像し、学習の見通しをもって、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりしようとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価	時間	
1 前時の学習内容を振り返り、本時の課題を確認する。		○グループで選んだ場面を確認し、課題に取り組む意欲を高める。	4	
<p>とうじょう人ぶつのこうどうをそうぞうしながら、グループで音読げきのミニはっぴょうかいをしよう。</p>				
2 グループごとに音読劇を撮影する。	○音読の工夫の仕方	○3つの役を順番に受け持ち、場面全体の読みを深められるようにする。	12 (4分×3)	
3 撮影した動画をもとに感想を伝え合う。	○音読の改善点の見つけ方	○動画をもとにイメージ通り音読できた点や改善点を考えさせる。	15 (5分×3)	
<p>事例のポイント②④ 撮影した動画を見て、登場人物の行動を具体的に想像して演じることができているか自分で評価したり、感想を伝え合ったりする。</p>		<p>【主体的に学習に取り組む態度①】 発表の観察</p> <ul style="list-style-type: none"> 進んで、場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像し、学習の見通しをもって、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりしようとしている児童をBとする。 〈「努力を要する」状況(C)への手立て〉 台本に書き込んだことに気を付けて演じることができたか焦点を絞って、自分で評価ができるように支援する。 		
<p>(2、3の活動を3回繰り返す。)</p>				
<p>〈期待される児童の反応〉 「だって、ぼく、お手紙をもらったことないんだもの。」は、がまくんの悲しい気持ちを伝えることができるように、小さめの声で弱々しく読むことができました。</p>				
4 本時のまとめをする。		○上手にできたことを取り上げ、台本の充実に結び付ける。	7	
<p>〈学習のポイント〉 場面のようにすをもとに、がまくんとかえるくんのしたことの理由をよく考えてから、どのような顔、声、動きがあっているか確かめる。</p>				
5 本時の振り返りをする。		○本時の学習を振り返るとともに、学級全体の前で発表する音読劇に向けて見通しをもたせる。	7	
<p>〈期待される児童の振り返り〉 ・グループで音読劇をして、初めて自分が音読するところを動画で見ました。わたしは、かえるくんの「きっと来るよ。」を元気な声で読んでいましたが、友達からもっとやさしく読んだ方がいいと言われました。わたしもよく考えたら、やさしく読んだ方が、がまくんを大切な友達だと思っている気持ちが伝わると思いました。</p>				

